

四月十八日

十時四十分院レクチャー。初めて院生のヒヤリングをする。何に關心をもっているのかな。十五時学部三年設計製図入江先生の第一課題出題。私は光と空間に関して小さなスピーチをする。セインズベリーのノーマン・フォスター設計のギャラリーと、ニューヘヴンのルイス・カーン設計のプリティッシュアートミュージアムについて話す。学部の三年生には少しばかり、それどころかかなり高度な話を敢えてした。建築というのは底知れぬ深さをおのずから包み込んでいるモノなのだという事を伝えたかった。李祖原、グライターもショートスピーチ。この四十分程は早稲田の設計教育の現場は世界最高水準になっていたと思う。十七時TVのスタッフと打合わせ。その後清水建設大山氏と雑談。大山氏は色々私の設計教育方針に苦言を呈された。その苦言を要約すれば、建設産業の中核を担うのは先鋭的な才質ではなく、中庸の理解力を持つ普通より少し上くらいの才質を持つ人材なのだから、その層に教育のフォーカスを当てるべきだと言うような事だった。でもね、早稲田建築の中核は職業訓練学校ではないと私は考えている。どう批判されてもデザインの理念だけは教え、感じさせたと思うのだ。私が出来た事はそれだけなのだ。しかし批判は批判として聞きたいと思う。周りが全てイエスマンばかりになるのが一番危険なんだから。苦言、批判大歓迎。

四月十九日

朝屋上菜園に上る。生ゴミを埋めて、ナスやトマトその他の苗を点検。チューリップが見事に咲いている。まだ緑がうすく空中の地面にしゃがみ込んでみても匂いは立ちのぼってこない。十時少しばかりの打合わせ。昼前北海道十勝後藤さん来世田谷村。フィードミュージアムの打合せ。打合せ中に我ながら仲々の良いアイデアが生まれ光明が見えてくる。こんな時だなあ。この仕事やってて良かったと思うのは。十四時半過、CY・LEE夫妻、グライター来世田谷。十七時過まで食事しながら歓談。次女友美も同席。その後、星の子愛児園へ。近藤理事長と会いに出掛ける。二時半修了。厚生館愛児園グループの新人歓迎会に出席。小さなスピーチ。二十二時世田谷に戻る。結局CYとグライターは二〇時三〇分迄世田谷村に居たらしい。今日のスケジュールはミスしたな私が。

四月二〇日

六時起きる。ドイツバウハウス建築大学でのレクチャーの準備をする。二つの大学でやるのだが基本的には同じモノで少しバリエーションのイクザンプルを付け加える事にする。次女友美、オランダのコンペの一次審査を通つたらしいが、詳細不明。十時トモコーポレーションの友岡社長夫妻が迎えに来て下さって富士山へ。車の中で、友岡さんの息子さんがかンボジア・ブノンペン私のワークショップに参加していた事が判明。ズーツと連絡が無く心配しておられた様で、元気でしたかとそれでも安心したようだった。早稲田の文学部の青年で、真黒に陽焼けした、今時珍らしいしっかりした学生だったのを思い出した。年令を問わずどんな人間に会ってもキチンと対応しなくてはならぬ事を思い知る。

猪苗代湖に民芸村のようなモノを考えているらしく、相談を受ける。十三時前、聖徳寺現場着。鉄骨の一部が建ち上がっており、予想していたよりもコレワ良かった。アーチのスケールと三角形の梁がぴったり決まっていた。十六時過東京に戻り、友岡夫妻と栄寿司で食事。夜、サンパウロのセシリア教授から電話あり、八月初旬にブラジルへ行く事になった。十勝毎日新聞の原稿書く。今日は日曜日であった。

四月二一日

明日の夜からドイツに行かなくてはならぬので今日も又絶望的なスケジュール。こここのところ休みが全くとれていない。体が休息を欲しているのが解るのだが、休めない。忙しいのを中断する勇気が無いだけなのだ。七時四十分ドイツでの講義の骨子まとめ終る。残りは沢山過ぎる原稿をどうするかだ。今日はどんなスケジュールであったか充分に頭に入っていない。十時前地下室ミーティング。十四時過大学。十五時過スタジオG。十七時半、CY&ライターと共に磯崎アトリエへ。十八時磯崎アトリエ。久しぶりに磯崎新に会う。磯崎のエレガンシーに溢れた（コレは本当に口惜しい位のモノで、そんじょそらの日本人には備蓄されていない類のモノになっている）話に触れて、西麻布のイタ飯屋に行く。磯崎新の話しも実に新鮮で、二十三時くらいまで食事は続いた。二十四時半頃世田谷村に戻る。これから色々大変だろうが、この新外人教授達は私がそのシステムを守ろうと思う。教師の資質から言っても、案の定この二人は充二分なモノをこの三週間で示してくれた。しかしネエ、本当これから先はどうなるのかな。予測もつかない。